

2020年度事業計画

1 子育て支援のために行う一時保育事業

(1) 保育サービス事業

- ファミリー・サポートの保育サービス講習会が基本となっているため、引き続き、受講者の募集、周知を団体として重点的に年間を通して取り組んでいきます。
- ピッコロ発足から取り組んできた柔軟かつ緊急対応のニーズに応え、ファミサポの補完的な役割を果たしている一時預かりは、件数は少なくなっていますが、必要不可欠な事業となっています。近隣地域の子ども家庭支援センターからの紹介で困難を抱えた家庭への支援については、ピッコロ独自事業として実施しています。今後は、近隣地域の養育支援訪問事業としての位置付けで支援できるように提案していきます。

(2) 肢体不自由児童介助

- 小学校1校の介助になる予定です。お子さんの体調を十分に配慮するとともに、教育委員会及び学校・保護者との連携を大切にスムーズな事業の実施に努めます。

(3) 小規模保育事業 小規模保育室「ピッコロルーム」

- 乳幼児期によりよく生きる力の基礎を育てるため、子どもの主体性を大事に丁寧な関わりをする援助者になるために職員会議等で話し合い、援助の仕方の共有に努めます。
- 保育者は子どもとの朝の挨拶、受け入れ時を通して、関わりの中から子どもたちの体調、機嫌などをつかみ、その日の保育やその子との関わりを考えていきます。
- 毎日の保育を通して、子どもの自己主張する力、コミュニケーション力を育てていく工夫をします。自己主張しなければならないシーンをとらえ、他の人に納得してもらうよう手助けします。それが自己主張であり、コミュニケーションであるのでその機会を丁寧に援助していきます。
- 子どもが何かしたいと思ったときに、それを叶えることができるような空間、備品、時間が準備されている環境設定をします。また、活動を保障するような言葉かけ、モデルを示します。
- あそびの中からの学びを保育の柱として、「体を使ってやってみる・感じてみる」など体験によって気付いたこと、感じたことを分かち合うことを大切に、それを援助していきます。
- 食育年間計画をもとに食育活動を調理員と保育士が一体となって検討します。例えば野菜を使ってスタンプをしたり、プランターで野菜を栽培し給食で食べたりします。毎月旬の食材に触れることで食べることを楽しむ子どもを育てていきます。
- 安全な保育活動を行うために、ヒヤリ・ハットがあった場合には些細なことでも記入し、職員全員で共有していきます。事例検討を通して、保育士の行動や援助の仕方、環境を振り返り、なぜヒヤリ・ハットが起きたのか考え合います。

2 子どもと大人のネットワークづくり事業

(1) 清瀬市子育てひろば事業「清瀬子育てネットワーク支援事業(K-net)」

- 「子育てひろば」を開催し、親子が安心してあそび、交流できる場を提供します。また、好評の「手遊びの時間」お子さんを預けての「コーヒータイトム」を引き続き実施し、親子で楽しむ場と保護者のリフレッシュの場を提供します。
- 「お母さんのリフレッシュ講座」を保育付きで開催し、保護者がゆっくり楽しむ時間を提供するとともに、講師を地域の方や子育て中の方に依頼することにより、活躍の場を拓けてもらう機会も提供します。
- 「ジュニア子育てサポーター養成講座」を開催し、小中学生が乳幼児とその保護者に触れあう体験を通して、命の大切さや子育ての楽しさを感じてもらい第一歩の機会を提供します。
- 「子育てサポータースキルアップ講座」をつどいのひろばと連携して開催し、子育て支援に関わるサポーターのスキルアップと地域の人材の受け入れを行います。
- K-net ニュースで様々な子育て情報を発信していきます。
- 安心・安全を第一にスタッフ同士の連携をしっかりと行うこと、誰でも気軽に参加でき居心地よく感じてもらえるような雰囲気を作ることで、子育て中の方も一緒にひろばを担うひとりと感じられる機会を設けることに重点をおき、常に親子に寄り添った空間であることを心がけます。

(2) 清瀬市子育てひろば事業 元町つどいの広場・竹丘つどいの広場

- 親子に寄り添った安全で安心できる心地よい場にする為に、前年度のアンケートの意見も参考に、子育て中の方々といっしょにひろばを作っていくことを重点とします。
- 主に乳幼児(0~3歳)をもつ親とその子どもが気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で語り合い、交流を図ることや、子育ての負担感の緩和を図り、安心して子育て・子育てができる環境を整備し、地域の子育て支援機能の役割を果たしていきます。コーヒーコーナーは、ホッとできる場となっており、引き続き実施していきます。
- 子育てに不安や疑問などをもっている子育て中の親子に対する相談、援助を実施することもアドバイザーの役割となっているため、新旧アドバイザー全員がその重要性を理解し、力量をつけるための研修にも積極的に参加していきます。
- 地域の子育て関連情報の提供については、子育て親子が必要とする身近な地域の様々な子育て支援に関する情報を各関係機関および各事業と連携しながら提供できるようにします。
- 産休・育休中から子育て支援拠点を見学や利用をすることで、産後のイメージができ、職場復帰をスムーズにするといわれています。プレママ・パパ向けへの広報を引き続き考えていきます。復帰後も拠点利用を入り口にして地域のつながりが得られるようにしていきます。
- 利用者が主体的に企画参加する「ママチャレンジ」、利用者からの持ち込み企画も増え、このまま継続していきます。今後も利用者同士が力を合わせた活動になるようサポートしていきます。
- ひろば利用者ママを中心にお子さんが幼稚園・小学校に行き、手の空いた方に、ひろばで行う講座のお手伝いを「ママボランティア」として募集します。ボランティアのルールも考えながら、他の活動へつなげられるようにしていきます。
- 昨年作成した緊急時対応のマニュアルをもとに年2回(春・秋) シミュレーションを実施します。
- HPを利用しひろばの認知、情報の提供に役立てます。
- アドバイザーの経験から、子育てしている当事者に届けたい講座に出会うことがあります。他の事業と連携して伝える方法を考えていきます。

3 子育てをサポートする人材育成・研修事業

- ピッコロの22年間の長い活動の中で蓄積してきたヒヤリ・ハットレポートや事例を活かし、実践から学ぶ研修を今後も実施していくとともに、専門家にご指導・ご協力を仰ぎ、分析や検証を進め、個々の活動に活かせるようにしていきます。
- 「子どもの最善の利益を尊重することがどんなことか」子どもと向き合うために演習を通し学べるセミナーを開催します。(11月ころ予定)
- 家事支援(食事作り・掃除等)を一定の水準に保てるよう携わる支援者向けのスキルアップ研修会を実施します。

4 ファミリー・サポート・センター事業

(1) 清瀬市ファミリー・サポート・センター事業 ファミリー・サポートきよせ

- 依頼内容が多岐にわたるため、「事前打ち合せ」は実際の援助内容を丁寧に聞き取り、危険のないように準備します。場合により、一度持ち帰り検討し、必要に応じて覚え書を交わしていきます。
- 会員間の相互援助活動であることを再確認し、依頼会員・提供会員がお互いに責任を持って無理のない援助活動をしていただくよう伝えていきます。
- 「保育サービス講習会」受講者の獲得は重要課題となっています。講習会チラシ、ポスター、ファミサポ通信の設置に会員の協力をお願いし、工夫をします。
- 年2回の全体交流会(7月・12月)のうち、前期は体を使って親子と提供・両方会員が楽しく交流できる内容とし、後期は保育付きで大人の体験を通して交流できる内容を計画していきます。
- スキルアップ研修会は、前期に「小児看護について」、後期に「応急救護」をテーマに計画していきます。
- 長年の活動からあがったヒヤリ・ハットレポートをまとめ、今後の活動に活かしていきます。
- アドバイザーは、全国アドバイザー講習会及び交流会に参加し、スキルアップに努めます。

(2) 家族まるごと支援事業 介護サポート・ピッコロ

- 今年度からしくみが変わります。依頼会員の申し込みはより丁寧に説明し、会員拡大に努めていきます。
- これまで以上によりきめ細かい支援を目指し、提供会員養成の講習会は年2回・スキルアップ研修会は年1回実施します。

○関係機関等との連携構築と依頼会員募集に際し、広報・周知に努めていきます。

(3) 女子医大・東京医大ファミリーサポート

- 東京女子医科大学より事業委託を受けてから10年目、東京医科大学と連携して7年目になります。この良好な関係を基盤にした有益な活動のために、調整会議の充実を図り、昨年度と同様に講習会、研修会、大学祭への参加を実施していきます。
- 年間利用者数をさらに増やすため、ポスターやチラシに加え、名刺大のツールも取り入れ、きめ細く学内への周知を行い、多様な場面で利用できることを通信などでPRしていきます。
- セキュリティを考慮したうえで、迅速かつ安心・安全なメールの活用を進めていきます。
- コーディネーターは、全国アドバイザー講習会及び交流会に参加し、スキルアップに努めます。

(4) DDユニットファミリーサポート 東京医科歯科大学・順天堂大学のファミリーサポート

- 会員がより利用しやすく、安心して参加できる活動を実施するために、東京医科歯科大学・順天堂大学との連絡調整会議を実施して、担当者間の情報共有を密にします。土曜日の病児・病後児保育を4月より利用開始します。
- 医療系機関に在籍する方の現状を理解し、事業を進めていきます。学内周知をより一層図るために広報活動に努めます。
- 提供会員の新規獲得に努め、保育サービス講習会への参加者を増やすと共に、既存会員のスキルアップ研修を行い、継続して会員の保育スキル及び安全な保育への意識の向上を図ります。
- 地域との連携を深めるため、文京区及び近隣区への広報活動を継続し、事業の周知を図ります。
- アドバイザーは全国アドバイザー講習会及び交流会に参加します。

5 家庭訪問型子育て支援事業

(1) 清瀬市養育支援訪問事業

- 家事支援（食事作り・掃除等）を一定の水準に保てるよう携わる支援者向けのスキルアップ研修会を実施します。
- 事業の受託団体が当法人の他に市内のNPO法人も実施することになったため、これまでの活動とヒヤリ・ハット等を検証しながら、この事業の目的を理解し、支援の質の向上を図っていきます。
- コーディネーター自身も外部が実施する研修に参加し、常に学ぶ姿勢で自己研鑽に努めます。

(2) 清瀬市ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業

- 夜間に携われる支援者が限られている現状を緩和できるような人材の育成に努めていきます。
- 子ども家庭支援センターをはじめとする専門職の方々にアドバイスを受け、連携しながら今後も支援を継続していきます。
- コーディネーターも自己研鑽と共にひとり親支援“NPO法人しんぐるまざあず・ふおーらむ”から情報を得たり、研修会に参加したりしていきます。
- ひとり親の支援を行うにあたり、実状を把握することは大切なので、支援者にも“しんぐるまざあず・ふおーらむ”等の研修会への参加を促します。

(3) 清瀬市ホームビジター派遣事業 ホームスタート・ピッコロ

- ホームスタートの利用を希望してきた方のニーズを把握し、訪問するホームビジターが安全に活動できるよう、オーガナイザーはサポートしていきます。訪問中は、ホームビジターの困りごとにも耳を傾け、問題解決に努めます。
- 新型コロナウイルス感染等の流行により、訪問する際の留意事項をオーガナイザーがもっと学び、ホームビジターや利用者に伝え、より安全な訪問になるようにします。
- ホームビジタースキルアップと報告会を合同開催（6月）し、子育てしている方や子育て支援をしたい方が興味を持つ企画を実施し、ホームスタートの周知の機会とします。
- 産前産後支援養成講座と通常ホームビジター養成講座（9/11～10/23）を開催し、活動できるボランティアを養成します。
- ホームスタート・ジャパンの助成金事業で行う学齢期の子どもがいる家庭へのホームスタートの支援の研究と試行に協力していきます。
- ホームスタート・ジャパン主催の関東エリアオーガナイザー研修会（8月）に参加し学び、他のスキームと情報交換するなどし、オーガナイザーの意識を高めていきます。
- トラステイ会議を年2回（7月、2月）開催します。

6 子どもの成育を支援する事業

赤ちゃんのチカラプロジェクト

2019年度の事業を振り返りながら、次年度へ向けてマニュアル整備や講座教材・講師講座内容打合せなど、準備を進めてまいりましたが、中学校・市教育委員会の話し合いにより、2020年度赤ちゃんのチカラプロジェクト事業は中止と決定いたしました。新しい学年の行事や学習の予定なども定まらず生徒さん保護者の皆さんも、また赤ちゃんを抱えるご家族にとってもしばらく不安な状況が続きます。次年度、安心して安全に事業が実施でき、この事業に集う皆さんと笑顔でお会いできることを心から願い楽しみにしています。

7 本会の目的を達成する事業

年間計画と共に中期計画が会員の中にも意識付くように働きかけ、目標達成を目指します。その中で、人材を活かし、次世代の育成も併せて考えていきます。

保育対応や活動の第一線から退いた人たちと地域とのつながりを大切にしていきます。

2020・2021年度役員体制

■役員体制 (2020～2021年度の2年間の任期となります。)

理事

小俣みどり 牧野靖子
西郷泰之(全国社会福祉協議会中央福祉学院 教授)
工藤宏子(カラムンの森子どもクリニック 臨床心理士)
辻村敏子(前(財)女性労働協会)
木村容子(日本社会事業大学 教授)
丸山安三(社会福祉法人 信愛報恩会 信愛の園 前施設長)

監事

我謝悟(社会福祉法人 三育ライフ 東京事業所 統括施設長)
八代田道子(消費生活アドバイザー・消費生活専門相談員・日本消費者教育学会員)

*肩書き等の詳細につきましては当法人ホームページの「理事・役員紹介」を参照ください。
*理事長・副理事長は理事が承認された後に、理事会の互選で決定します。

■事務局 & 責任者体制

事務局

小俣みどり
松村奈子 阿部俊恵 渡部栄子 原弘美
古谷康予 福田孝子 牧野靖子

*ファミリー・サポート・きよせアドバイザーに肥沼由美子が4月から担っております。

責任者

一時預かり	小俣みどり
介助員	渡部栄子
ピッコロルーム	施設長/高橋和代
K-n e t 責任者	古川寧子
つどいの広場責任者	(代表・元町) 米原恵子 (竹丘) 五十嵐英子
ファミリー・サポートきよせ	原弘美
女子医大ファミリーサポート	村田律子
DDユニット	水上真理
介護サポート・ピッコロ	渡部栄子
人材育成	小俣みどり
養育支援	小俣みどり
ひとり親	小俣みどり
ホームビジター	牧野靖子
赤ちゃんのチカラプロジェクト	福田孝子